

4 8月8日視察3日目（日本時間：8月9日）

(1) ターミナル駅調査 Centrall 駅¹⁶ 視察時間：8：50～9：20



図 2-13 宿泊 Hotel と Centrall 駅の位置関係 Google Map より筆者作成

視察 3 日目は行程説明などミーティング（7：30～8：00）を行い最初の目的地であるターミナル駅（Centrall）（図 2-13, 写真 2-131）へ向かった。（8：00～8：50）現地のターミナル駅はハブ的役割を担っている駅である。セントロ付近は治安も悪く治安不安定地域（図 2-14 赤丸）も存在する。視察団がバスから降りると悪臭が鼻を衝くと同時に現地ガイドが「集団になって歩いて！」「速足で！」「カメラ等は外に出さないで！」など



写真 2-131 Centrall 駅が入るビル 筆者撮影

¹⁶ リオデジャネイロの中心部に建つ、ブラジルでもっとも有名な鉄道駅である。「リオデジャネイロ中央駅」と訳されることもある。また、現地では 1998 年に改称される前の駅名であるドン・ペドロ・セグンド（ペドロ 2 世）駅の名でも依然良く知られている。ウィキペディア フリー百科事典「セントラル・ド・ブラジル駅」引用
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AB%E3%83%B%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%AB%E9%A7%85> 参照

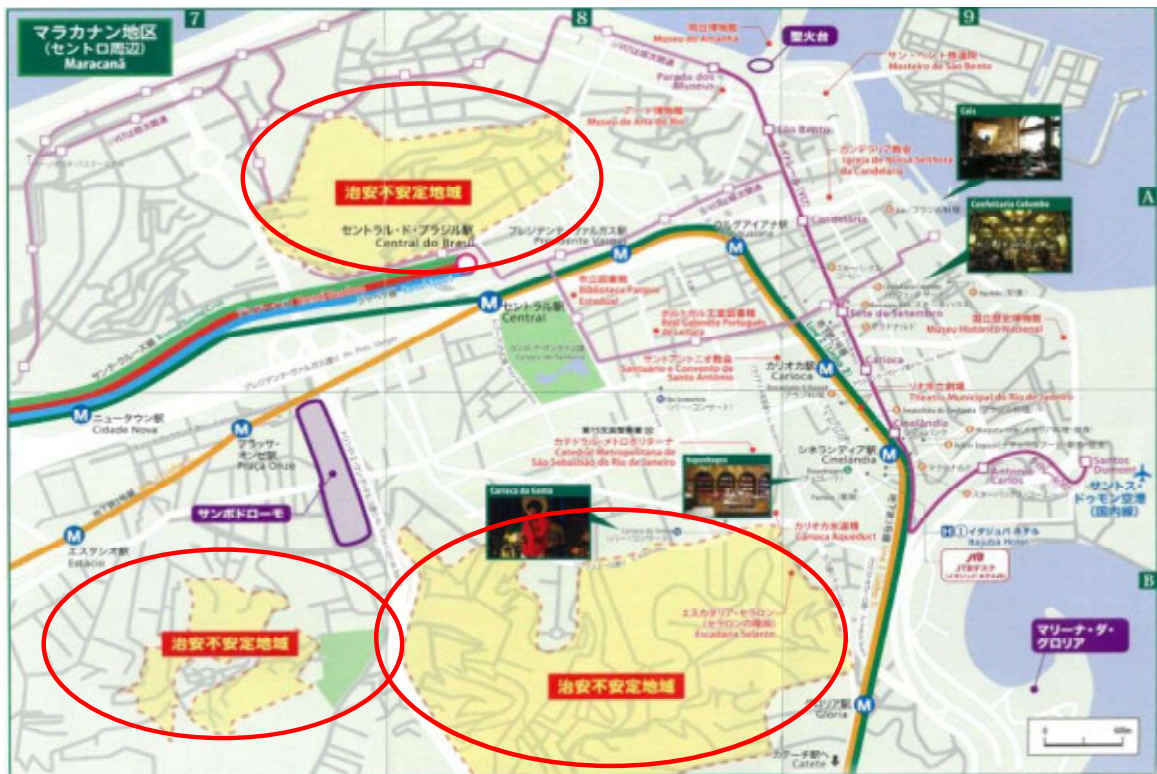


図 2-14 JTB スポーツ観戦マップより筆者作成



写真 2-132 鉄道入口 筆者撮影



写真 2-133 地下鉄入口 筆者撮影



写真 2-134 市民ボランティア 筆者撮影



写真 2-135 バス停とホームレス 筆者撮影



写真 2-136 駅前広場での物販 筆者撮影



写真 2-137 バス路線の案内 筆者撮影

語気を強めた。平日の通勤時間帯と重なったため、多くの人々（写真 2-132, 2-133）が行きかい、どこからともなく、大声が耳に入ってくる。何があっても振り向くな、振り返るな、目を合わせるな。がゲストに課せられた身を守るための手段である。



写真 2-138 バス合流場所の様子 筆者撮影

一方でこれだけ殺伐とした雰囲気の中、この駅から競技会場、リオ市内はもとより他市に鉄道、地下鉄、バス網（写真 2-137）が張り巡らされている。駅から会場へアクセスできることもあって市民ボランティアの女性（写真 2-134）が 2 人サインを掲げていた。バス発着場所の脇では数人のホームレス（写真 2-135）が寝ていた。

駅の付近の広場では多くのテント（写真 2-136）が張られ民芸品や生

活用品、雑貨等が売られていた。ここでも、買うそぶりや財布や現金を出すこと、目を合わせることはトラブルの原因となる。

視察を終えバスを待っている間も人々の往来やバスの発着は多かった。これだけ、危険性が高い地域でも警察等ではなく **GMT TÁTICO MÓVEL**¹⁷（写真 2-139）に頼っていた。



写真 2-139 GMT の警備 筆者撮影

¹⁷ タクティカルグループモバイルはリオデジャネイロ市の警備員
<http://www.rio.rj.gov.br/web/gmrrio/tatico-movel> 参照

(2) ホッケー会場調査¹⁸ 視察時間：10：00～13：30

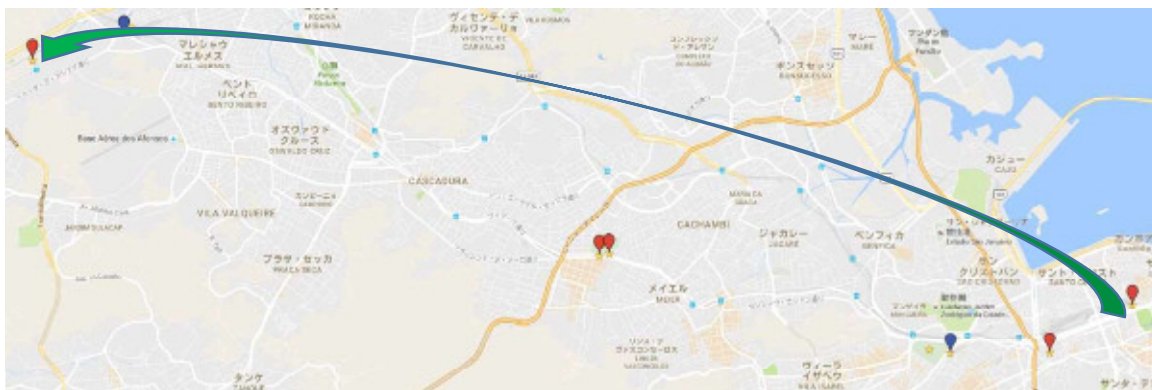


図 2-15 Centrall の位置関係と hockey 会場の位置関係 Google Map より筆者作成

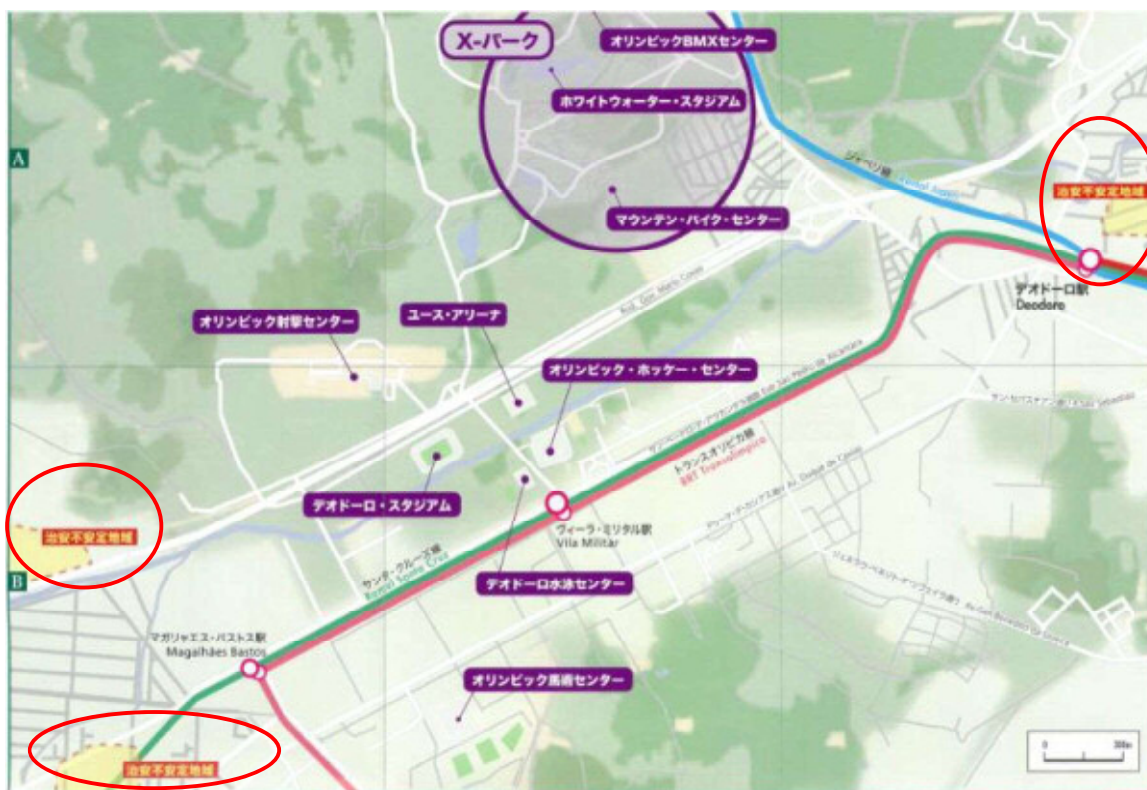


図 2-16 JTB スポーツ観戦マップを基に筆者作成

¹⁸ ホッケー観戦会場内の標識・施設等を調査、大会ボランティアインタビューや競技会場・競技進行・観客導線等視察調査※日本ホッケー協会による案内。デオドロ地区の多言語、バリアフリーWi-Fi対応、地元への滞留策、PR策等観察調査、大会ボランティアインタビュー等



写真 2-140 専用道路のペイント 筆者撮影



写真 2-141 落書き 筆者撮影



写真 2-142 競技場手前の交差点 筆者撮影



写真 2-143 専用道路のペイント 筆者撮影



写真 2-144 軍による警備 筆者撮影



写真 2-145 軍の騎馬隊による警備 筆者撮影

ターミナル駅の視察を終え Deodoro¹⁹ (図 2-15) へ向かった。(9:20~10:00) 会場に近づくにつれ道路にはオリンピック専用道路を示すペイント (写真 2-140) が施されていた。たとえ会場付近であっても建物には見慣れた落書き (写真 2-141) がされている。会場は軍事施設の

¹⁹ リオデジャネイロ西部に位置し、緑に囲まれたデオドロ地区は、ブラジルでもっとも大きな兵舎があり、約 6 万人の軍事関係者が集中する地域。五輪に使用する施設には、若者のスポーツ促進のため、2007 年のパンアメリカン競技大会時に建てられたものも多く、新たにデオドロ競技場や五輪 BMX センターも整備された。カヌー・スラロームや BMX のコースは閉会后、五輪トレーニングセンターとして利用されるほか、一般にも開放される



写真 2-146 セキュリティーゲート 筆者撮影



写真 2-147 木の根により劣化した歩道 筆者撮影



写真 2-148 劣化した道路 筆者撮影



写真 2-149 分別のごみ箱 筆者撮影



写真 2-150 清掃職員 筆者撮影



写真 2-151 会場のセキュリティーゲート 筆者撮影

エリアにあり警備が厳重だった。オリンピック競技会場の中心でもあるバーハ地区やその他の地区では強盗や窃盗等が競技大会期間中に多く発生した。デオドロ地区での被害は少ないが、付近には治安不安定地区（図 2-16）がある。軍の警備（写真 2-144,2-145,2-146）もあって会場から数キロ離れた交差点（写真 2-142）でバスを下車して会場まで歩いた。

歩道部は劣化（2-147,2-148 写真）が目立ちバリアフリーとは程遠い。歩道上には分別のごみ箱（写真 2-149）が設置されていた。赤がプラスチック、青が紙、黄色が金属と記載されていた。緑は判別できなかった。ビーチバレー会場等では目にしなかったがこの地区では常設で設置しているようだ。会場までの道中には清掃職員（写真 2-150）が職務を遂行していた。セキュリティゲート（写真 2-146）は軍が行い物々しい雰囲気だったが、ある意味、安心と安全は担保されている。さらに、会場が位置する公園内にも組織委員会によるX線検査（写真）とバーコードによるチケットの読み取り（写真 2-152）が行われていた。入場するとモビリティサービスによる車いす（写真 2-153）が配備され、会場内にも数か所配備（写真 2-154）されていた。

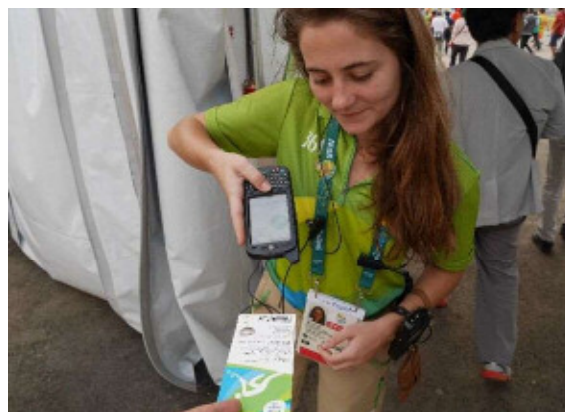


写真 2-152 バーコードリーダーによる
チケットチェック 筆者撮影



写真 2-153 会場入口に配備された車いす 筆者撮影



写真 2-154 会場内に配備された車いす 筆者撮影



写真 2-155 バドミントン体験 筆者撮影



写真 2-156 スナッグゴルフ体験 筆者撮影



写真 2-157 体力測定 筆者撮影



写真 2-158 パブリックビューイング 筆者撮影



写真 2-159 会場内サイン 筆者撮影



写真 2-160 各競技場サイン 筆者撮影

会場の敷地では、多くの体験、参加型アトラクションが展開されて、簡易なバドミントン（写真 2-155）、スナッグゴルフ（写真 2-156）や的当て、体力測定コーナー（写真 2-157）やパブリックビューイング（写真 2-158）等、子ども向けというより観戦者誰もが楽しめるエリアとなっていた。東京競技大会開催時には品川区も都や組織委員会と連携し簡易的なスポーツイベントを催すことも考え既存のスポーツを含むニュースポーツも取り入れるべきであり、その時は品川区スポーツ協会に所属する団体の協力は必須である。

敷地内をスムーズに案内するためのサイン（写真 2-159,2-160）競技会場の案内板も充実しており、ゲストの視点では、多言語表示や文字よりも、イラストでの表記に勝るものはないと感じた。

ホッケー会場わきを流れる汚泥と悪臭漂う川（写真 2-162）に架かる単管パイプで造られた仮設の橋（写真 2-161）を渡ると広大な敷地の中にフェンシング、近代五種のプール、バスケットボール等多くの種目会場が隣接する。このような会場の集積は賑わいの創出につながっていると考える。尚、仮設の橋にはバリアフリーとしてエレベーターが設置されていたが、一機は修理中（写真 2-163）だった。



写真 2-161 仮設橋の構造 筆者撮影



写真 2-162 汚泥・悪臭がする川 筆者撮影



写真 2-163 修理中のエレベーター 筆者撮影



写真 2-164 ホッケー協会の皆様 筆者撮影



写真 2-165 ゴール前の攻防 筆者撮影



写真 2-166 空席が目立つ観客席 筆者撮影

感動を覚えた。マイナースポーツといわれているがそれが払拭された。その一方でメジャー競技は予選や対戦カードを問わず、ほぼ各試合で多くの観客が見込まれるが、マイナー競技では集客（写真 2-166）と周辺のにぎわいが見込めない現実問題があるため、数種目が同敷地で展開されることが多いという。

2020年のホッケー競技においては、単独競技開催に対して、周辺での賑わい創出は大きな課題と考えられる。文化プログラム創出とイベ



公益社団法人 日本ホッケー協会

国際委員会委員

中野 雅文

T150-8060 東京都港区神宮1-1-1 昭和記念体育会館内
TEL 03-3481-2330 FAX 03-3481-2329
携帯 090-3268-4902
メールアドレス mas@ml.jhca.or.jp (白地)



公益社団法人 日本ホッケー協会

強化本部長 山口 修一郎

〒150-8060 東京都港区神宮1-1-1 昭和記念体育会館内
TEL 03-3481-2330 FAX 03-3481-2329
携帯 090-3268-4902
E-mail yonaguchiu@jhca.jp



JAPAN HOCKEY ASSOCIATION
公益社団法人 日本ホッケー協会

広報・マーケティング委員会

西村 卓 Taku Nishimura

T150-8060
東京都港区神宮1-1-1 昭和記念体育会館内
TEL 03-3481-2330 FAX 03-3481-2329
e-mail : taku@hokkousha.co.jp
MP : 090-1487-6056

名刺 2-3 ホッケー協会の名刺 筆者交換

今回のホッケー観戦には公益社団法人 日本ホッケー協会の方々（写真 2-164, 名刺 2-3）にエスコートして頂いた。ホッケーの公式戦を初めて観戦したが力と力のぶつかり合い、機敏にフィールドを駆け回る選手、特にゴール前の選手の攻防（写真 2-165）は見る価値に匹敵し

ントの実施は必須と考える。尚、ホッケー仕様の人工芝をサブグラウンドで確認出来たが、非常に芝目は短く、多目的利用において安全性や他競技には不向きであり、今後の競技場の在り方について課題を感じた。オリンピック・パラリンピック推進特別委員会で大井ふ頭中央海浜公園第2球技場を視察した際に、ホッケー用途が認められている会場でも過去3年ホッケーの使用実績がゼロという現場のコメントが今後の競技場の在り方を左右することは品川区も問題意識を持ってもらいたい。

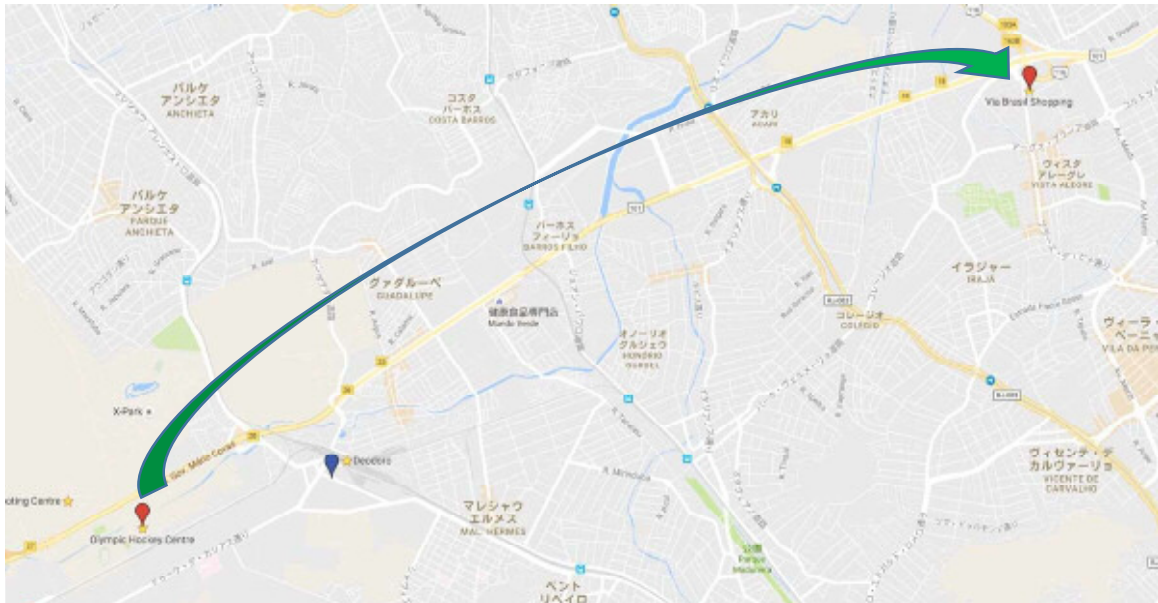


図 2-16 hockey 会場と昼食会場の位置関係 Google Map より筆者作成



写真 2-167 ショッピングセンター 筆者撮影



写真 2-168 筆者注文中 筆者撮影

ホッケー会場を後に昼食のため VIA BRASIL SHOPPING（写真 2-167, 図 2-16）へ向かった。（13:30～14:00）ショッピングセンター内のフードコート（写真 2-168）で各自昼食をとった。筆者はファストフード（写真 2-169）を選んだが来伯して以来このような食事が続いている。（14:00～15:00）ショッピングセンター内は市街地に比べ格段に居心地がよく安心と安全を実感した。ここでも言葉の壁は厚く注文するのに多少の時間がかかった。次の目的地である Centro²⁰へ移動（図 2-17）した。（15:00～16:00）



写真 2-169 ファストフード 筆者撮影

²⁰ セントロはリオの歴史的な中心部であり、また現在でも経済的中心でもある。セントロの中心であるリオ・ブランコ通りはビジネス街で、多くのオフィスビルが立ち並ぶ。東西にはプレジデチ・ヴァルガス

(3) リオ 2016 組織委員会等ヒアリング²¹

視察時間：16：00～17：15

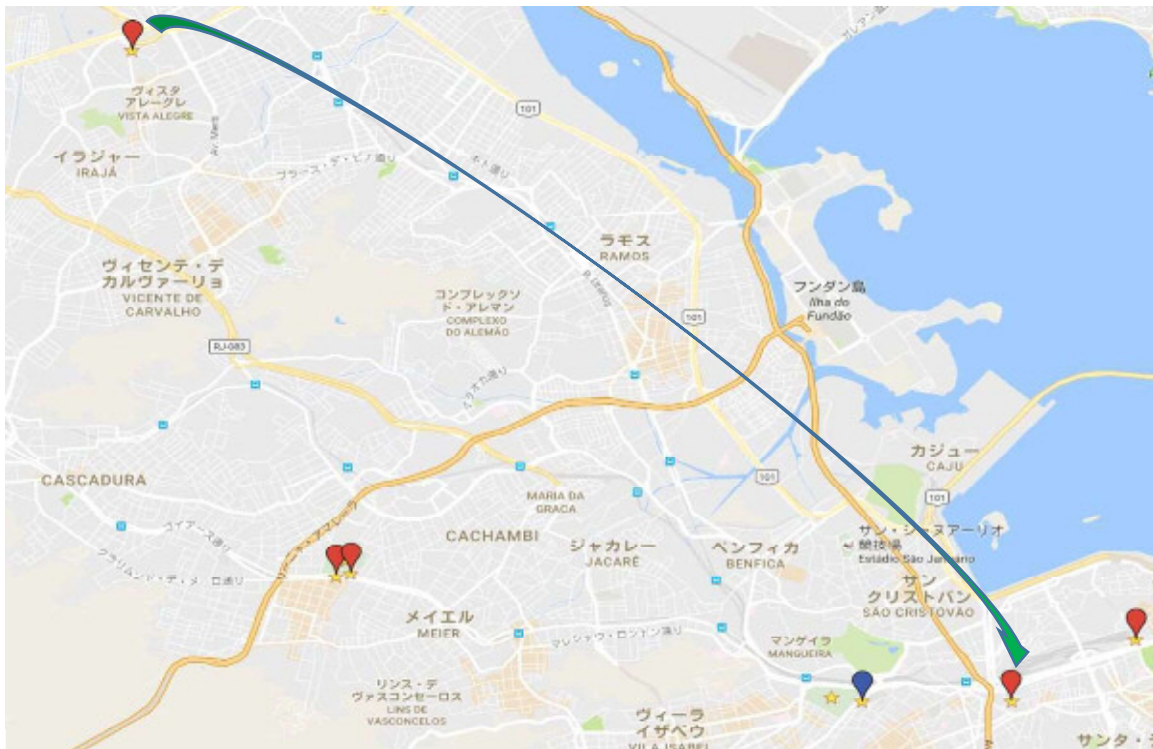


図 2-17 昼食会場と組織委員会の位置関係 Google Map より筆者作成

組織委員会本部にて、受付の女性（写真 2-170）に迎えられた。最初は愛想が悪かったが名刺代わりにピンバッジを渡すと笑顔に変わった。名刺よりも何よりもピンバッジの交換が喜ばれるようだ。こうした現状を考えると日本国内においてもその慣例は理解しなければならないと考える。日本人はこうしたことに慣れていない。



写真 2-170 受付の女性 筆者撮影

大通りが走っており、リオの中央駅であるドン・ペドロ 2 世駅もこの通り沿いにある。東端にはグアナバラ湾に面してサントス・ドゥモン空港があり、国内線が多く発着する。また西部には、カーニバルのメイン会場となるサンボードロモ・ダ・マルケス・ジ・サブカイがある。ウィキペディアフリー百科事典引用
²¹ リオ市文化プログラム担当部署ヒアリング、組織委員会教育チーム Centro



写真 2-171 組織委員会正面玄関 筆者撮影



写真 2-172 組織委員会・市担当者と 筆者撮影

文化プログラム責任者へのヒアリングをすることができた。現実問題として、組織委員会主導での文化プログラム展開はあまり出来ていない。しかしながらリオ市が主体となって多くの市民公募を経て大小2区分の400プロジェクトが認定され、今年5月よりスタートしたとのこと。シアターや文学、ストリートダンスなど活発な模様。そして支えたり参加する仕組みとして「カルチャーパスポート」というネーミングの冊子が100万部発行されたり、参加するには何か提供するしくみのパートナーが1000件ほどの応募があったとの事。これらは自治体が主体である。同時に、インフラ活用、住民参加や企業協力を活用するリーダーや、支える役回りを場面ごとに展開する印象を持った。

組織委員会が入るビル前の歩道上には、灰皿と一体になったごみ箱（写真 2-173）が設置されていた。リオデジャネイロ市内の飲食店内等では禁煙だが外であれば咎められない。品川区では歩行喫煙やポイ捨て禁止を行っている。東京大会に向け分煙を考えるのであれば喫煙場所の整備も必要であると考え。公共的な建物、特にオリンピック関連の施設のバリアフリー（写真 2-171）は整備されていると考える。今後のこうしたまちづくりに期待する。最後にリオ市の担当者と組織委員会の方と集合写真（写真 2-172）を撮った。次の目的地 Copacabana 地区の Pacific House へ移動（図 2-18）（17：15～18：00）



写真 2-173 灰皿一体型のごみ箱 筆者撮影

(4) Pacific House^{22 23}視察 視察時間：18：00～18：40

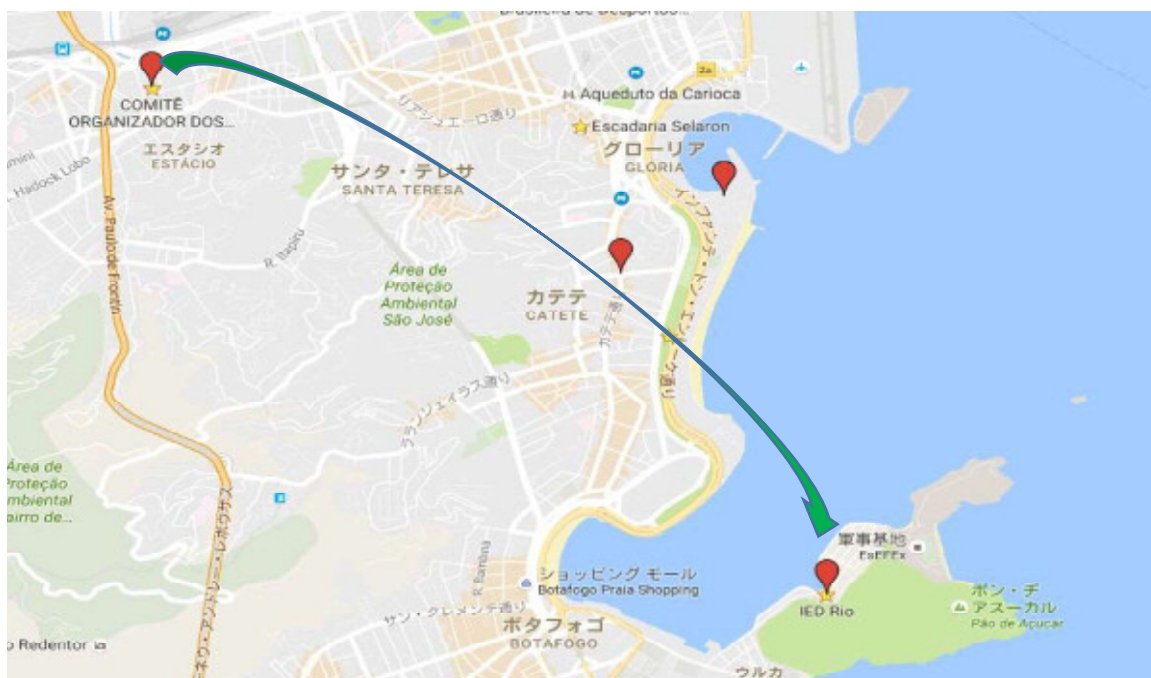


図 2-18 組織委員会と Pacific House の位置関係 Google Map より筆者作成

国や自治体と共に重要な主体として、企業の存在は欠かせない。スポンサー企業をはじめとするネットワークにも関心を持つべきことを感じた。このパシフィックハウス（写真 2-176）でのレセプションには、スポンサー企業に関連する人たちが集い（写真 2-175）、ビジネス交流が展開され、競技運営のみならず先に報告した文化プログラムやホスピタリティハウスの企画や運営の源のような印象を持った。視察団は、2020年東京・品川のPRと共に、企画パートナー選定のきっかけを探った時間でもあった。ホストのご好意もあって品川区の事前キャンプ誘致PR用冊子（写真 2-174）について説明し置く事ができた。この House は Sports World 社²⁴が IED RIO²⁵に設置したもので、その



写真 2-174 品川区のPR用冊子 筆者撮影

²² NOC へのキャンプ誘致プロモーション実施 Copacabana 地区

²³ pacific house rio sports world <http://www.sportsworldbrazil2016.com/>参照

²⁴ スポーツワールド <http://www.sportsworld.co.uk/>参照

²⁵ IED RIO <http://ied.edu.br/rio/>参照

他にはスポーツブランドやスケートボードの簡易練習場が入っていた。品川区もこうした民間企業と連携し誘致活動を行うことも否定できない。



写真 2-175 関係者が集い始める 筆者撮影



写真 2-176 パシフィックハウス 筆者撮影

(5) ビーチバレーボール競技場周辺の賑わい等視察

視察時間：19：15～20：50



図 2-19 Pacific House とコパカバーナ海岸と宿泊ホテル位置関係 Google Map より筆者作成

Pacific House (IED RIO) からバスでコパカバーナまで移動（図 2-19）し徒歩にて宿泊ホテルへ向かった。図上の緑矢印はバス移動、青矢印は徒歩移動。コパカバーナビーチは、もともとの観光名所であるが、ビーチバレーボール会場や巨大な公式グッズショップ（写真 2-177,2-178）が展開され、賑わいの拠点となっていた。競技場内や公式グッズ販売所は、公式スポンサーのみの展開が厳しく守られているエリアだが、その一部を除く大半の敷地では、オリンピック開催を問わず、常設の飲食店（写真 2-179）やおみやげ売り場が市場のように続いており、昼夜問わずにぎわい続けていた。



写真 2-177 巨大な公式ショップ 筆者撮影



写真 2-178 公式ショップ内 筆者撮影



写真 2-179 常設の飲食店 筆者撮影



写真 2-180 劣化した歩道 筆者撮影



写真 2-181 職質を受ける物売り 筆者撮影

私たちの日常で例えると、神社祭礼の屋台が並ぶ参道や縁日、フリーマーケットが並ぶようなイベントと同様な光景であった。多くの来訪者がこの雰囲気を楽しみ、観光や競技観戦後の醍醐味を楽しんでいる。ここに行けば何かがある、賑わっているという情報を事前に知ることによって足を運ぶ大きな動機になることを実感し、効果的なプロモーションによる集客で成果が出るものと重ねて実感した。



写真 2-182 飲食店 筆者撮影



写真 2-183 ボリュームがある食事 筆者撮影

宿泊ホテルまでの道中では劣化した歩道（写真 2-180）、物売りに対して職務質問している警察（写真 2-181）も目にした。宿泊ホテルに戻り夕食（20：50～21：30）をホテル近くの交差点にある飲食店（写真 2-182）でとった。異国の地で食事（写真 2-183）を注文するときに注意することは、その量である。打ち合わせ後（21：30～22：30）就寝。